

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2890 号	氏名	七種 伸行
審査担当者	主査	田中 芳琳 (印)	
	副主査	志波 直人 (印)	
	副主査	中村 規一郎 (印)	
主論文題目：			
外科系集中治療室開設に伴う重症熱型表システムの開発と院内の情報共有支援			

審査結果の要旨 (意見)

著者は集中治療室での診療において必要な熱型表を電子カルテの拡張機能として電子的に構成するシステムを考案、開発し、新設された久留米大学医学部附属病院の外科系集中治療室での運用における有用性を証明した。従来、一般的であった部門システムとの併用を不要としたことで、大量の生体情報を一元的に管理することが可能となり、情報の二次利用や医療安全管理の促進にも寄与するものである。本論文は当該システムにおける情報の標準化・構造化手法をまとめ、その有用性を証明したものであり、学位論文として価値あるものであると判断する。

論文要旨

我が国では電子カルテ等の病院情報システム(HIS: Hospital Information System)が普及し、膨大な医療情報が集積されている。集中治療室では機器連携や網羅的な熱型表が必要なため、部門情報システム (DIS: Department Information System) の併用が一般的である。久留米大学病院では HIS における記録の標準化・構造化が停滞し、院内の情報共有や二次利用に問題を生じていた。2014 年 4 月の外科系集中治療室(SICU: Surgical Intensive Care Unit)開設にあたっては DIS を採用せず、HIS 側で記録の標準化・構造化を進め、機器連携拡大と電子熱型表システムを実現した。本システムの概要および SICU 開設前後での心臓血管外科周術期管理における記録の変化について報告する。月別の対象者は有意に減少した一方、連携機器による入力件数は月 46393.5 ± 19195.9 件から 3195669.0 ± 176051.0 件と大幅に増加した。生体情報の一元管理化と高度な熱型表構築を可能とした事例は過去に存在せず、病床管理や安全管理、さらに診療や研究、病院運営等への活用が期待される。